



【インタビュー】
映画『標的の島』^{かし}風かたか』の監督
三上智恵さん

「標的の島」とは 沖縄のことではない

——それは今あなたが暮らす日本列島のこと

「映画を観て、よく、沖縄のために何をしたらいいですか？
って聞かれるんですけど、私、これをやったらいいですよ
って答えは持ち合わせていないんです。ただ目の前にあ
る問題に、いてもたってもいられない」と思ふのは、自分の
蓄積があつて半分解決策が見えてる、自分の知らないうちに
そこが反応してるからなんですよ」

みかみ ちえ

ジャーナリスト。映画監督。琉球朝日放送（QAB）開局からキャ
スターを務めつつ数多くのドキュメンタリー番組を制作。映画作品
に、『標的の村』2012年、『戦場ぬ止め』2015年、『標的の島
風かたか』2017年。著書に『戦場ぬ止め 辺野古・高江からの祈
り』2015年（大月書店）、『風かたか「標的の島」撮影記』
2017年（大月書店）、共著『女子力で読み解く基地神話 在京メ
ディアが伝ええない沖縄問題の深層』2016年（かもがわ出版）。

——最新作の映画『標的の島 風かたか』。タ
イトルの意味を、まず教えてください。

第一作『標的の村』は訓練の標的の話だっ
たんです。今度は本当に戦争の標的にされ
る。「標的の島」日本列島の導火線になるの
が先島ですね。標的になるために真っ先に自
衛隊を配備しますという。「標的の島」では、
あまりにもストレートで残酷だと思いまし
た。じつは「風かたか」の方をメインタイ
トルにしたかったんです。

風かたかは、沖縄の古い言葉で防波堤とか
風よけという意味です。昨年4月28日、20歳
の女の子が戻ってこなかったあの出来事、米
軍属による暴行殺人事件の被害者を追悼する
県民大会で、古謝美佐子さん（沖縄音楽を代
表する歌手）が歌った曲「童神」にある言葉
です。そのあと「風かたかになって守ってあ
げられなかった」という名護市の稲嶺市長の
一言で、みんな気持ちが崩れ落ちました。

1995年の少女暴行事件からこの20年、
必死にやってきたはずなのに、あのととき8万
6千人の県民大会も開き、時の大田昌秀知事
が米軍基地借用の代理署名を拒否して、最高
裁まで争って、負けましたが、日本政府
はこのままではまずいとアメリカと相談して
普天間基地を返還する、基地の整理縮小をし
ますって流れになったわけですよ。だけど肝
心の普天間代替施設が嘘で、辺野古に恒久的
な出撃拠点をつくる話にすりかわって、つい
に命まで奪われる事態になってしまった。風
かたかになれなかった。いったい自分たちは
何をしてきたのかという、本当に心折れそう
な昨年6月19日の追悼大会だったわけです。

でも、この島で生まれてくる未来の命にこ
の状況を丸投げしたくない。日本と沖縄の、
利用されるだけ、軍事的な植民地をひきうけ
るだけという関係性を少しでも解消して、平
和に生きられる島にしたいと、風かたかにな
ろうとするわけですよ。沖縄の人たちがと
つともなく大きな敵、日米両政府が決めてく
るいろんな政策に対抗する強さっていうのは
どこから来るのかも描きたかったんです。

本土の人たちはまた沖縄を風かたかにして
助かるうとしている。中国が怖いからと言っ
て、南西諸島に軍備をつみあげている。だけ
ど、アメリカから見たら日本列島自体が風か
たかなんですよ、アメリカにとって日本列
島は第一列島線と言って防波堤にしか映って
いない。防波堤に生きてるってどういう気分
ですかって突きつけないという、おっかない
意味も入っています。

——追悼県民大会でも、古謝さんの歌はあく
までしなやかでやわらか。映画では沖縄の文
化、お祭りの風景、歌や踊りがたくさん登場
して、そのエネルギーが伝わってきました。

石垣島で（陸上自衛隊ミサイル部隊を配備
する計画に抗議する「いのちと暮らしを守る